（別紙３）

公表　事業所における自己評価総括表

○事業所名	児童発達支援センター（第一放課後等デイサービスぽこぽこ）			
○保護者評価実施期間	令和8年10月2日	～	令和8年10月31日	
○保護者評価有効回答数	（対象者数）	15	（回答者数）	14
○従業者評価実施期間	令和8年10月2日	～	令和8年10月31日	
○従業者評価有効回答数	（対象者数）	7	（回答者数）	7
○事業者向け自己評価表作成日	令和8年10月2日			

○ 分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	職員一人一人が、子どもの特性や行動背景の理解をしようと努めている。	職員一人一人が、子どもの行動観察を丁寧に行っており、活動中や過ごしの中での行動や刺激に対する反応について考察し、支援に役立てている。	職員間で使用しやすいアセスメントツール、フォーマルなアセスメントツールを、必要に応じて検討していく。
2	子どもの日常生活動作支援、身体機能の面の支援ができる。	食事や排泄、整容などの日常動作の支援（介助）を大切にしている。排泄動作では尿意の発信や不快なことの発信ができるよう環境に配慮している。また衣類の上げ下げなどの操作性を丁寧に見て、姿勢等もスタッフ間で検討している。食事動作も、道具の操作性や巧緻性、認知機能など評価・支援している。	子どものに日常動作の自立に向けて、介助度について（過介助とならない為に）さらに検討する。上記同様、アセスメントの充実を図る。
3	小集団の中での子どもの社会性の育みに取り組んでいる。	ルールや役割のある活動で順番を待ったり役割を担ったり、机上を使った認知活動では道具の貸し借りをしたりと、子ども同士のやりとりを大切にしている。子どものやりとりの中で発信がある場合には、職員が仲立ちしたり、個別で話を聞くなどの支援をしている。	個別活動の目的を十分に検討し、必要な児童に個別活動を提供できるよう支援する。

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	○職員間の情報共有、話し合い等の時間の不足	事業の展開に応じて職員の勤務形態や時間帯が異なり、情報共有の為の時間を持ちにくい。また、利用児童を前に話し合いは出来難い為。	少しでも良いので、時間を作り、スタッフ間で話ができるよう意識づけを行う。
2	○家族支援の不足。	事業所として、家族からの相談があれば相談・助言・支援を行う方針ではあるが、家族発信する機会や場の提供が不確立。	保護者参観等、子どもの様子を見たり、スタッフや保護者間で話ができる機会を検討する。
3	○支援提供時間に、子どもの個別活動の為の場所と時間が提供できていない。	構造的に個別活動の為の部屋（音が遮断されたり、視覚情報の調整ができる部屋）がない。スタッフの人員配置により、個別活動の時間を設けにくいことも多い。	個別活動の目的を十分に検討し、必要な児童に個別活動を提供できるよう支援する。